令和 4 年 8 月 23 日

沖縄県新型コロナウイルス感染症発生動向報告

沖縄県疫学・統計解析委員会

【現状】

新規陽性者数・実効再生産数

沖縄県における先週（8 月 15 日-21 日）の新規陽性者数は 26,207 人（先々週 25,871 人）でした。沖縄本島（周辺離島を含む）における先週の実効再生産数(R) *1 は 1.00 [最小値 0.51-最大値 1.36]、このうち那覇市は 0.99 [0.57-1.27]でした。また、宮古は 0.96 [0.46-1.33]、八重山は 1.05 [0.68-1.30]でした（図１）。県内で報告される陽性者数は、ほぼ横ばいとなっており減少が止まっています。お盆休みが終わって検査体制が通常に戻ったこともありますが、休み中に交流が活発になったことで感染が拡がっている可能性もあります。

*1：最終日を除いた直近 7 日間における日別推定値（平均値）の平均値。[ ]内は、直近 7 日間における日別推定値（平均値）の範囲（最小値から最大値）を表す。

保健所管区別

保健所管轄区域別（7 日間合計）では、北部 2,312 人（先々週 1,669 人）、中部 7,870 人（先々週 8,143 人）、那覇市 5,413 人（先々週 5,474 人）、南部 8,207 人（先々週 8,110 人）、宮古 1,239 人（先々週 1,363 人）、八重山 825 人（先々週 767 人）でした（図２）。北部のみ明らかな再拡大が生じており、その他の地域は、ほぼ横ばいで推移しています。なお、感染を確認した県外からの渡航者（7 日間合計）は 318 人（先々週 312 人）でした（図３）。

年齢階級別推移

年齢階級別では、先週に引き続き 40 代が 3,900 人（15%）と最多であり、30 代 3,870 人（15%）、20 代 3,603 人（14%）と続きます（図４）。とくに小児の報告数が減少していますが、学校が休みであるため、症状を認めても検査を受けるよう求められなくなったことが影響している可能性があります。一方、とくに活動性の高い 20 代で増加に転じており、今後、世代を越えて拡がらないか注意する必要があります（図５）。

入院患者数推移

入院患者数は先週末時点で 999 人（8 月 14 日時点 1,096 人）であり、このうち酸素投与など中等症患者は 389 人（8 月 14 日時点 460 人）と減少しています。週単位（月曜）で入院患者が減少したのは、9 週間ぶりとなります。気管挿管など重症患者は 11 人（8 月 14 日時点 11 人）で変わりません（図６）。

沖縄県内において救急受入を担っている 21 の重点医療機関において、先週末時点で医師 56 人と看護師 322 人が新型コロナウイルスに感染して休職しています。濃厚接触者などその他の理由による休職者も含めると、医師 70 人と看護師 492 人が働くことができなくなっています（図７）。医師の休職数は減少していますが、看護師は高止まりしています。

一方、社会福祉施設で療養されている陽性者は、先週末時点で 126 施設 966 人（8 月 14 日時点 1,176 人）と減少に転じています（図８）。病院外で酸素投与が行われている療養者数も 65 人（8 月 14 日時点 92 人）であり、減少はしているものの入院すべき感染者が入院できないでいる状況が続いています（図９）。

【今後の見通しと対策】

沖縄県では、新規陽性者数は減少に転じていますが、いまだ高いレベルでの流行となっており、入院できる病床が限定されるなど、医療ひっ迫の状態が続いています。とくに、北部地域では再流行が生じており、新規陽性者数が過去最高となっています。

お盆休み明けとなった先週の特徴は、活動的な若者および壮年世代で多くの感染を確認したことにあります。とくに 20 代では急速に増加しており、世代人口当たりでは最多となっています。発熱や咳、咽頭痛、倦怠感などの症状を認めるときは、外出を控えてください。なお、現在流行しているBA5系統では、発熱を認めるのは6割程度との報告もあります[1]。発熱がなくとも、風邪を引いていると感じたら仕事や学校を休むことが大切です。

また、現在の流行状況において、多人数で集まって会食を楽しんだ方は、感染している可能性があると考えてください。その場合は、イベント後の7日間程度は、高齢者の自宅を訪問したり、食事をしたりしないようにしてください。また、さらなる会食については参加を控えるなど、感染拡大の防止にご協力ください。

7月以降、救急搬送件数は、コロナ発生前の2019年を凌ぐレベルで推移しています（図10）。搬送が必要でも搬送困難となった件数は、依然として高いレベルで続いています（図 11）。必要な医療が速やかに受けられない状態は、すべての救急医療において生じています。

入院患者数は緩徐に減少していますが、医療ひっ迫の状態は続いています。現在も自宅や在宅で酸素を吸入しながら入院を待っておられる方が、県内で 50 人以上おられます。施設での看取りも続いています。老衰と考えられる方もおられますが、医療を希望される方に十分な医療が届けられない異常な状態が続いています。

今週の新規陽性者数は 20,000-26,000 人となると見込みます。このまま9月までは緩徐に減り続ける可能性がありますが、学校再開により子どもたちで再流行しないか注意が必要です。また、入院患者数については、今週末までに 950-1,000 人となると見込まれます（図 12）。ただし、院内感染により入院継続となっている方々について、隔離解除が増えることが見通されており、これにより報告上は入院患者数が急減するかもしれません。

なお、沖縄県内では、インフルエンザの報告が続いています。8月1日の週には33人の報告が定点医療機関（57か所）よりあり、8月8日の週には22人（北部1人、中部11人、那覇市3人、南部7人、宮古0人、八重山0人）と減少しましたが、お盆休みの影響を考慮する必要があります。来週以降、学校が再開されることで、子どもたちでの流行が始まる可能性があります。

---

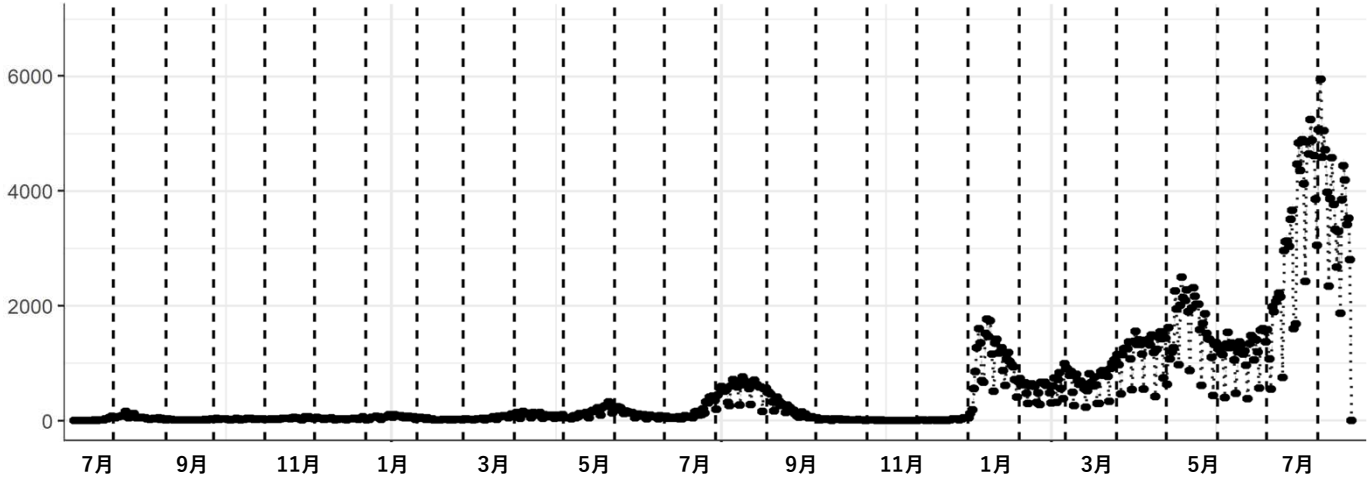
[1] フランス公衆衛生局の調査に基づく https://www.santepubliquefrance.fr/content/download/445484/file/analyse_risque_variants_20220615.pdf

図１ 陽性者数の推移と実効再生産数（北部、中部、南部）

陽性者数（確定日）

日あたり観察値

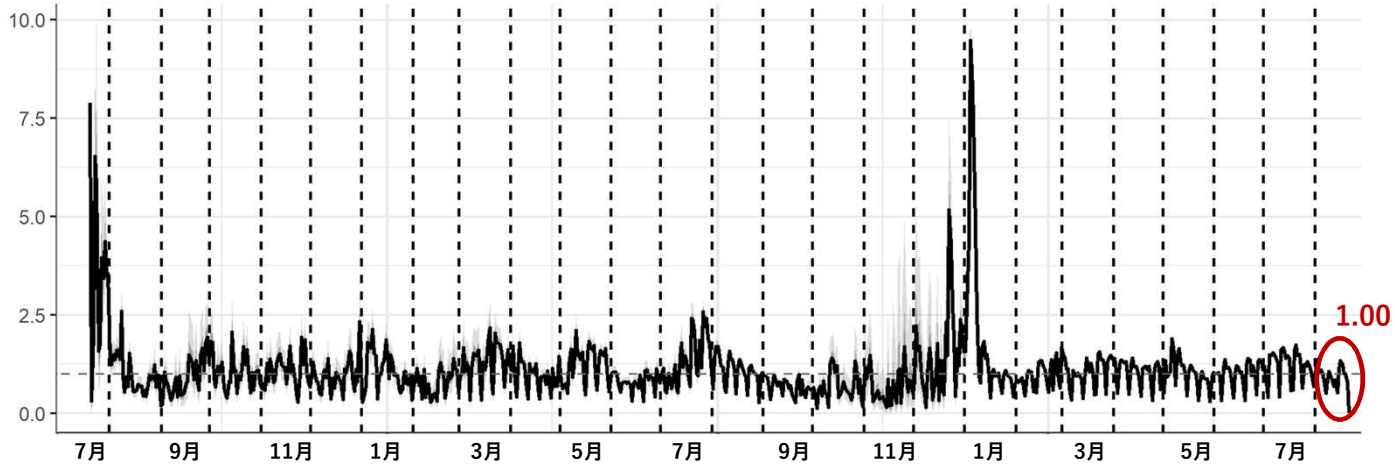
北部、中部、南部医療圏
（宮古・八重山を除く）



実効再生産数

直近７日間平均値

北部、中部、南部医療圏
（宮古・八重山を除く）



沖縄県疫学・統計解析委員会

図２ 保健所管区別にみる新規陽性者数の推移（沖縄県）

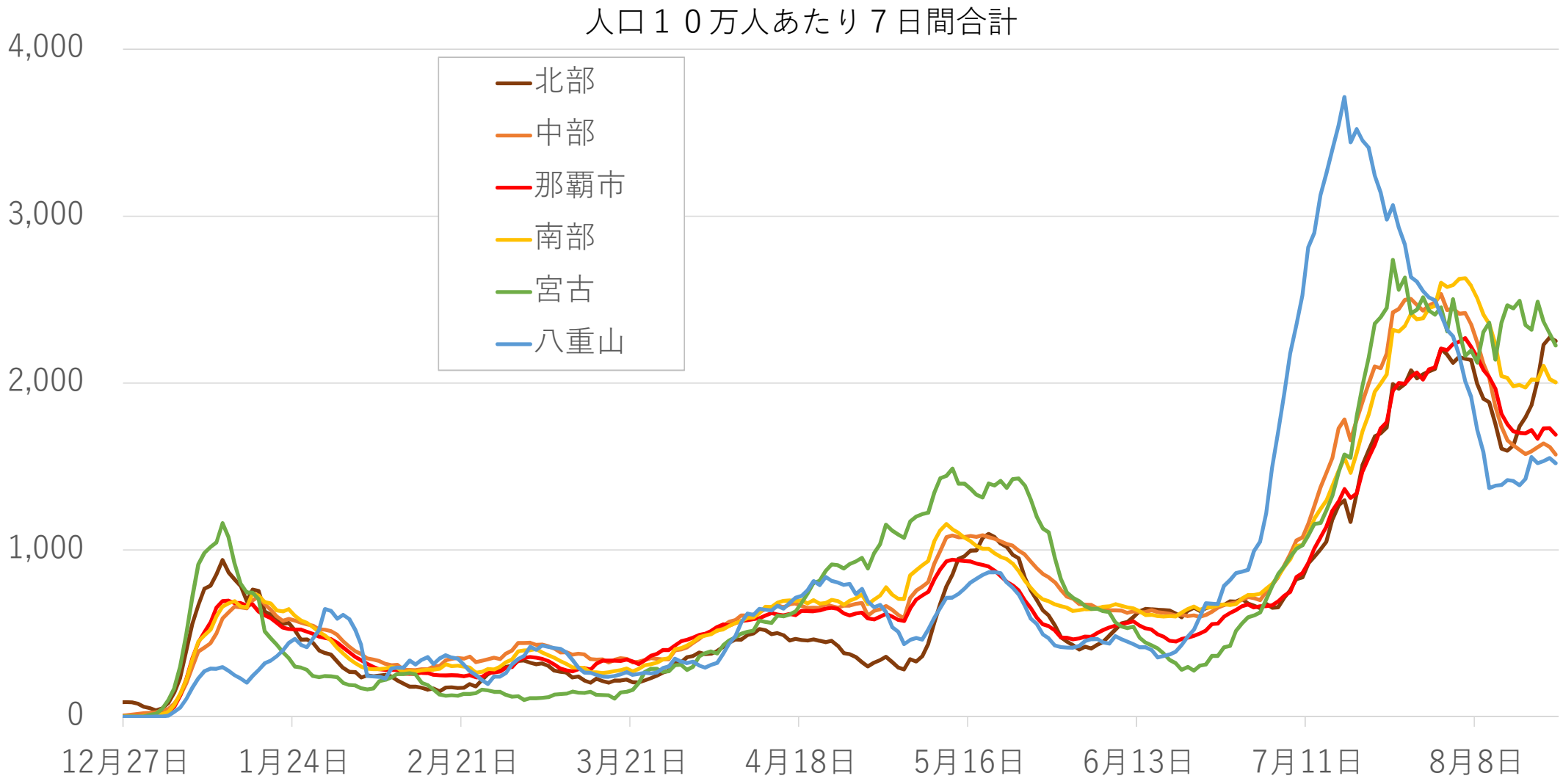


図３ 県外からの渡航者における新規陽性者数の推移（沖縄県）

図４ 性年齢階級別にみる陽性者数（8月15日～21日）

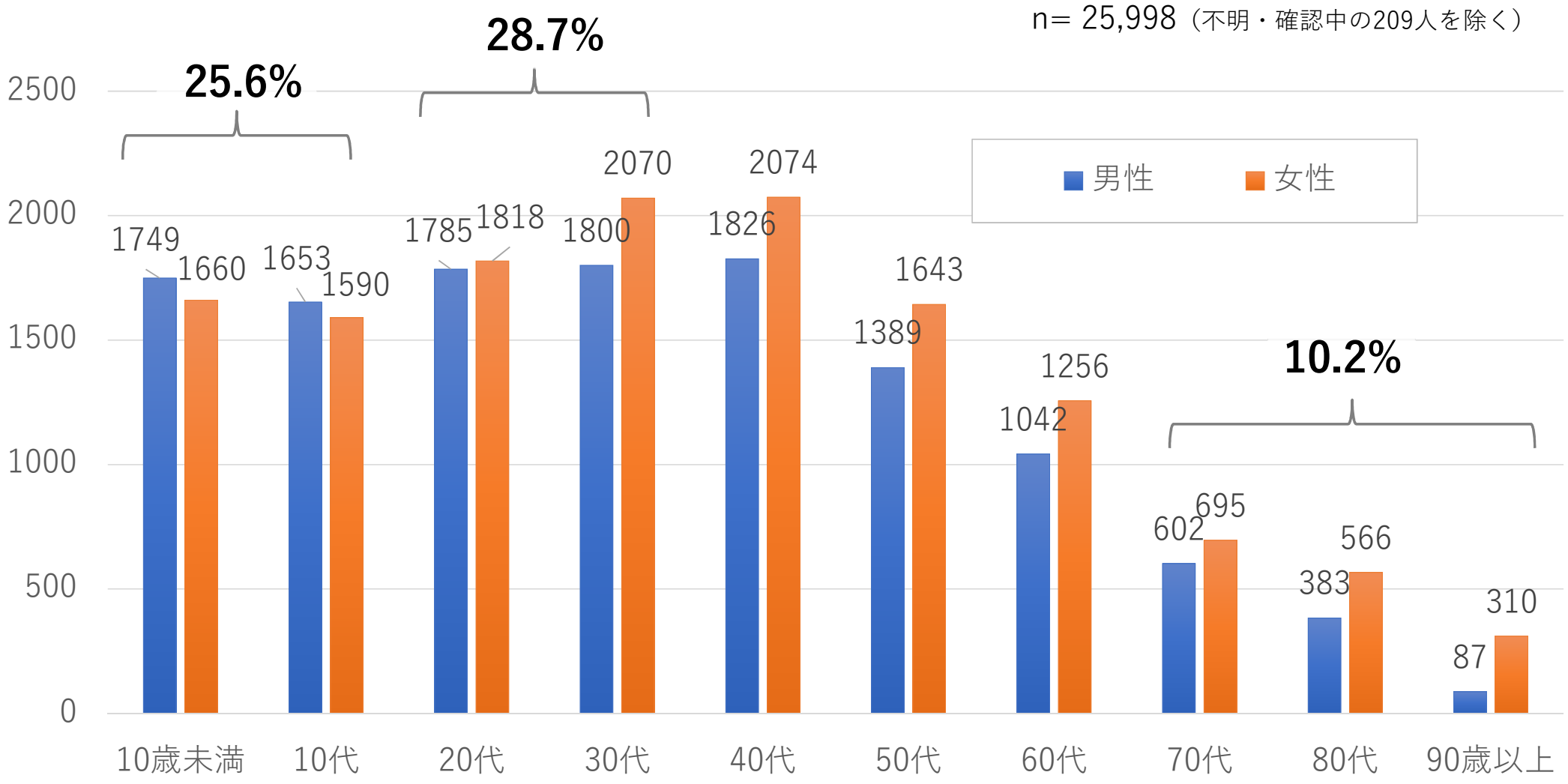


図５ 年齢階級別にみる新規陽性者数の推移（人口10万人あたり７日間合計）

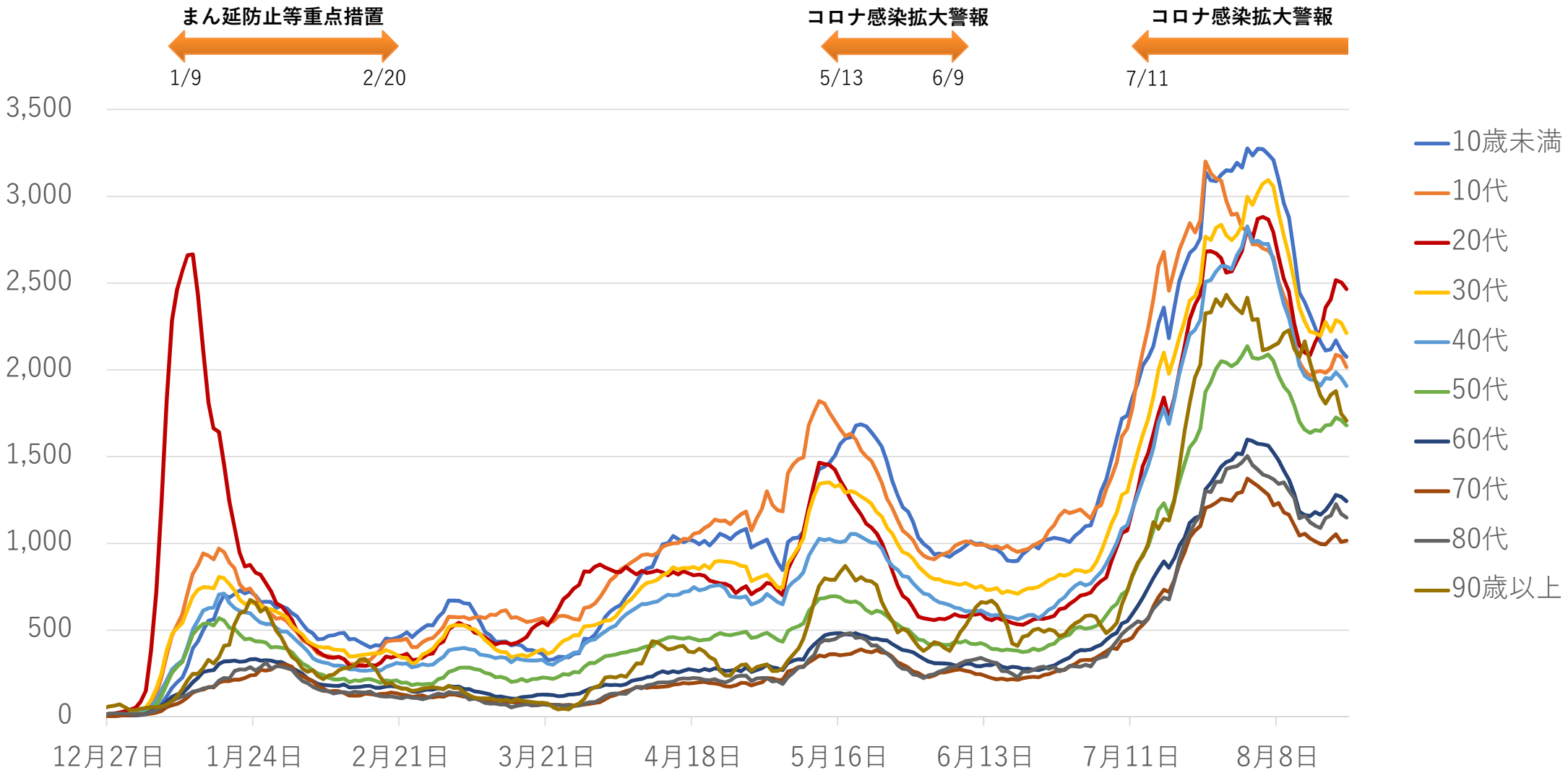


図６ 新規陽性者数と重症度別入院患者数の推移

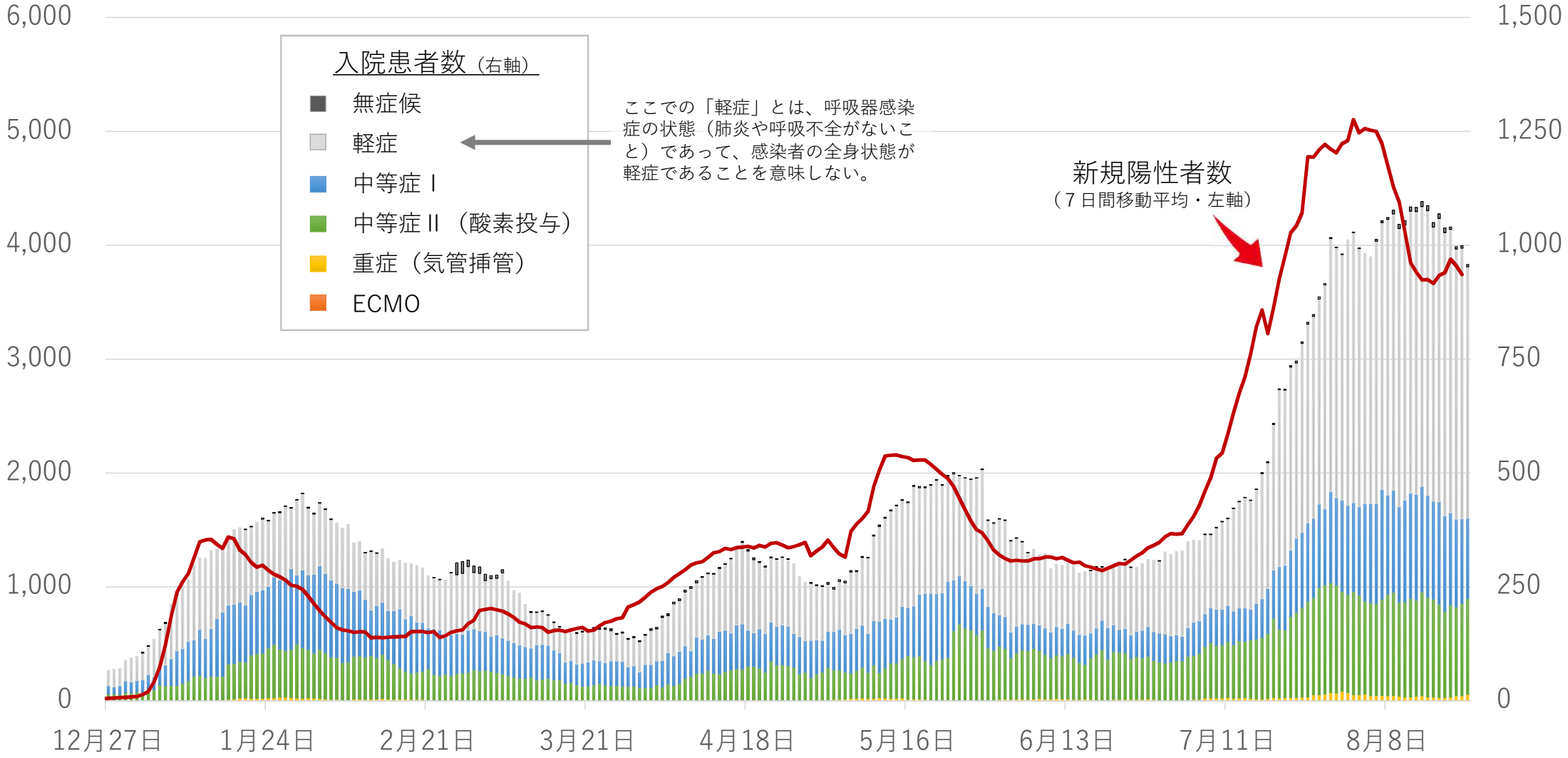
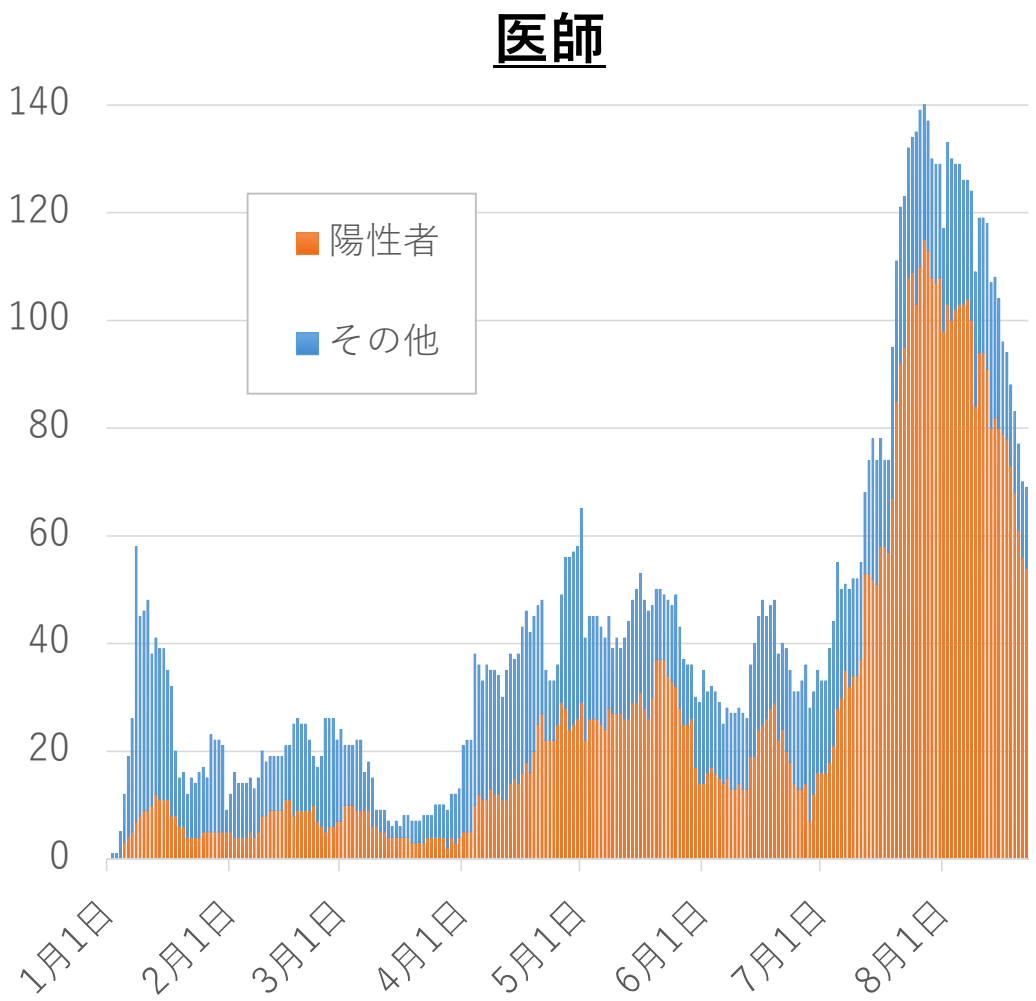


図７ 重点医療機関（21病院）における医師、看護師の休職数



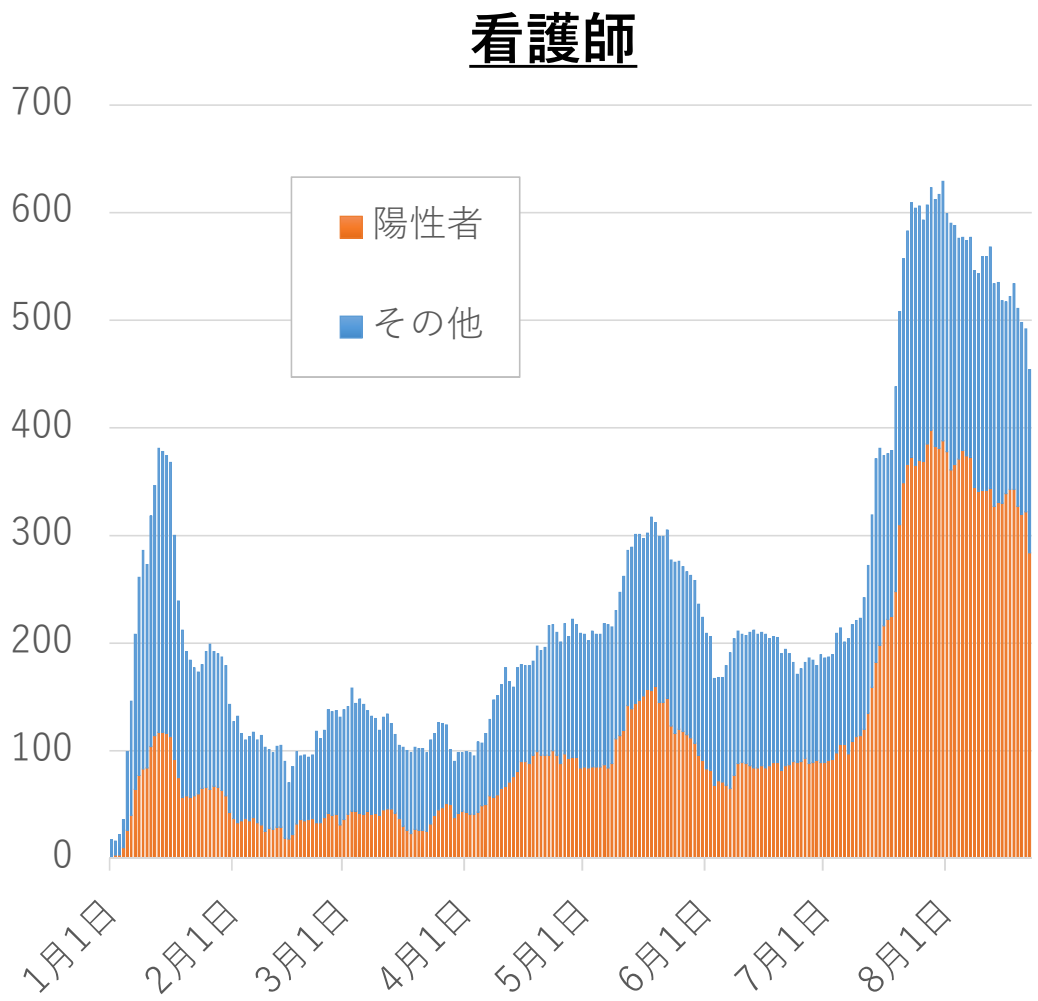


図８ 社会福祉施設における施設内療養者数

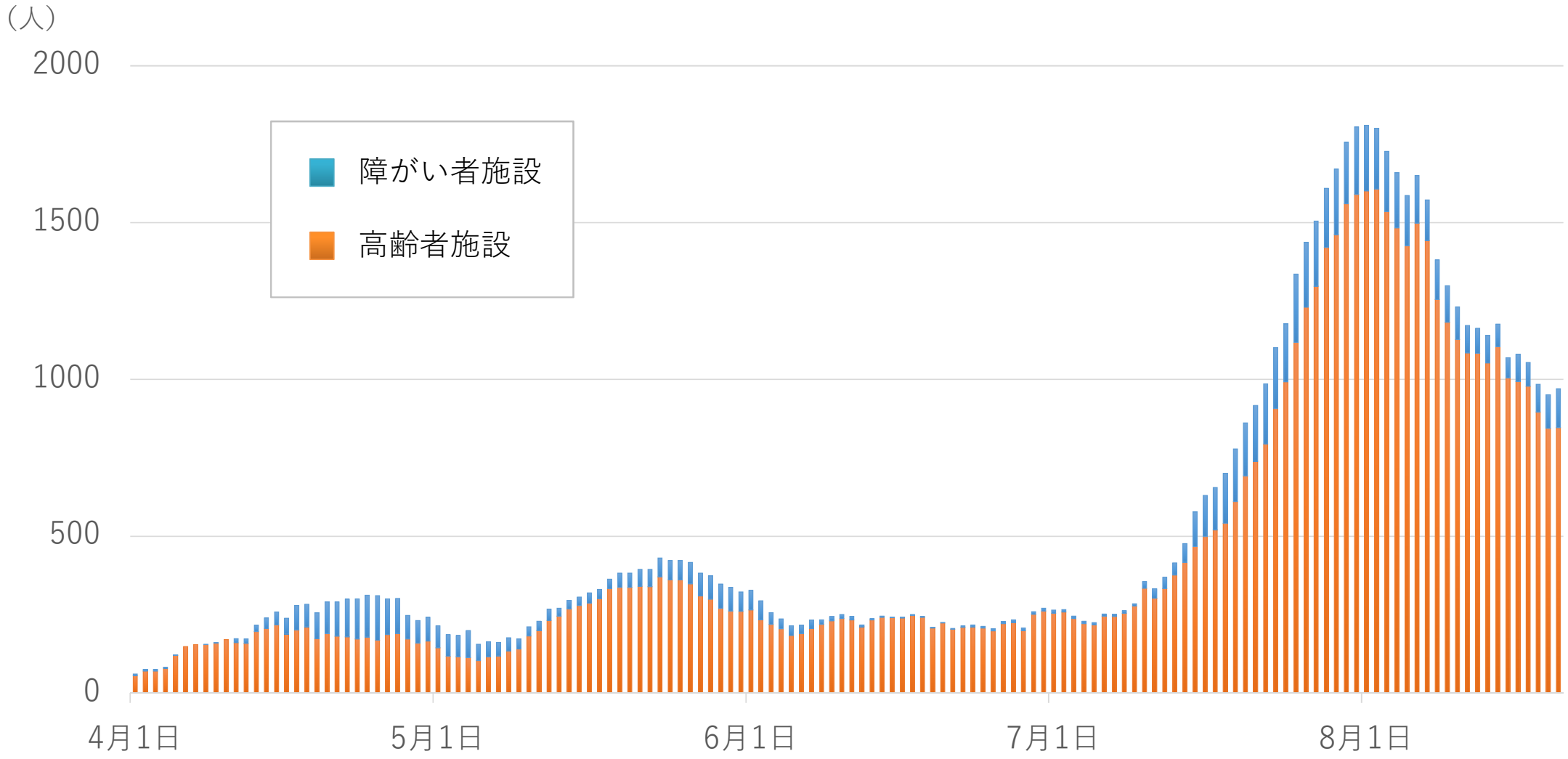


図９ 病院外において酸素投与が行われている療養者数

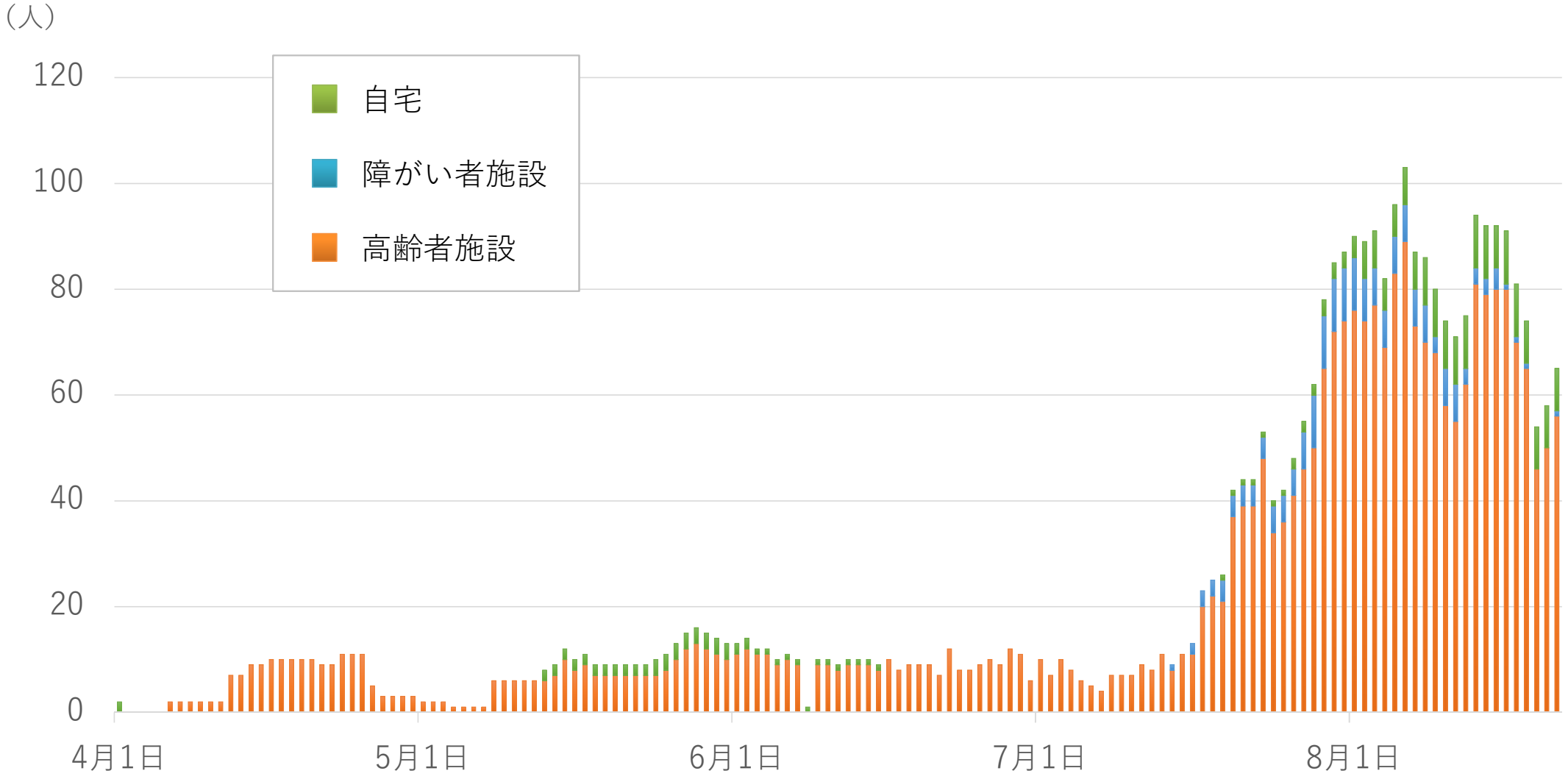


図10 沖縄県における救急搬送件数の推移

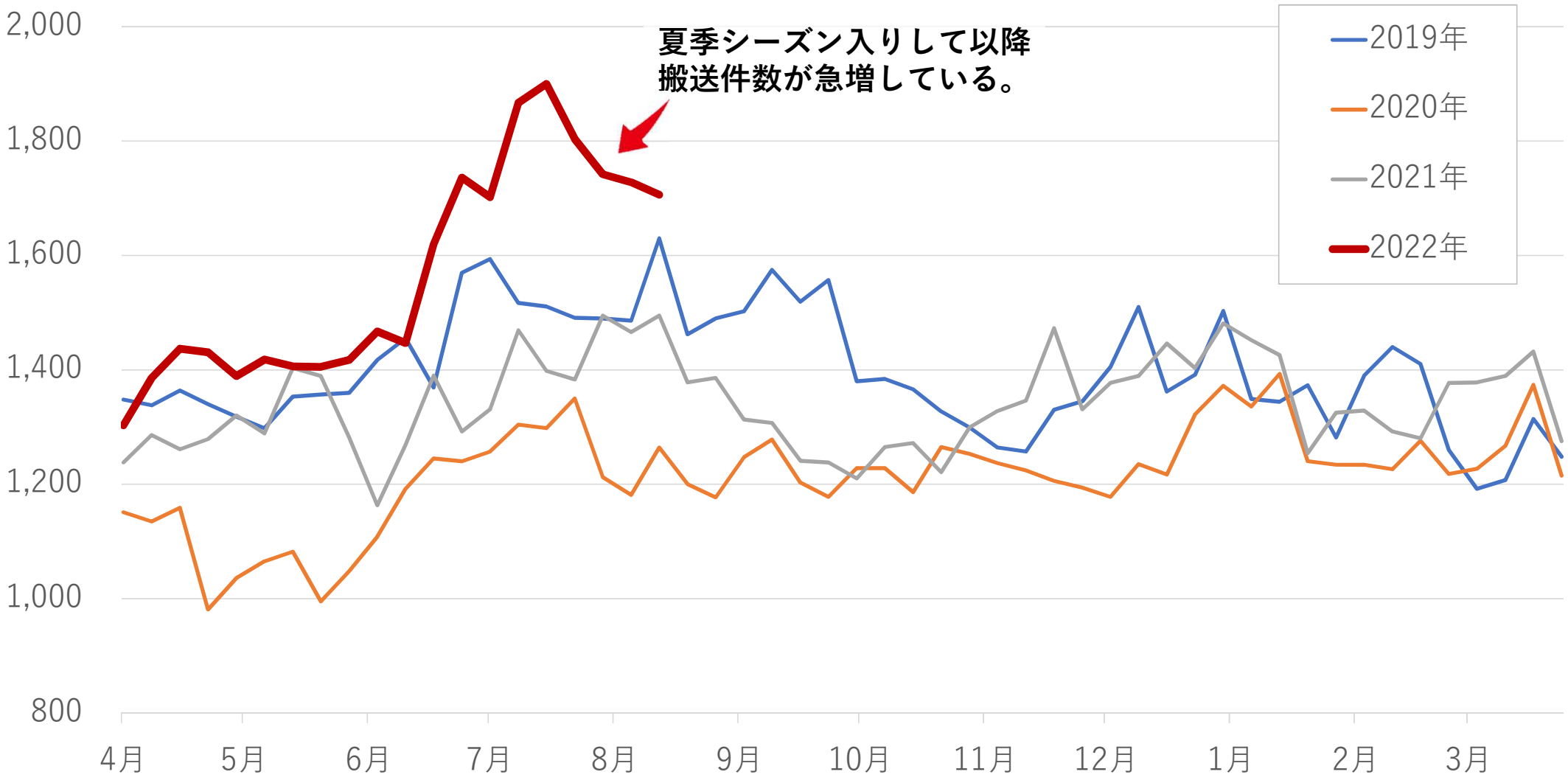
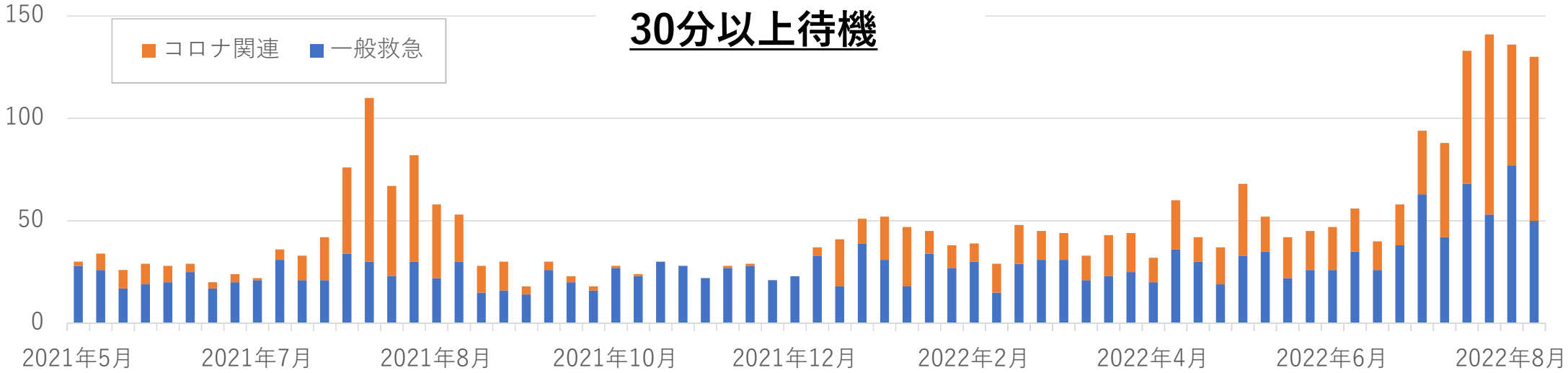


図11 搬送困難件数（30分以上待機、４回以上照会）の推移



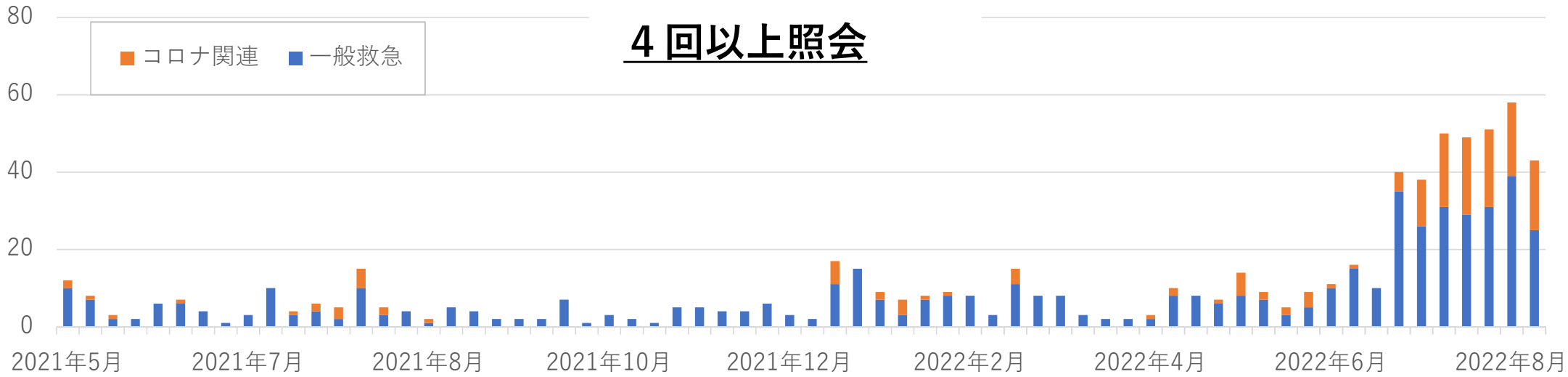


図12 今後１週間（8月22日-28日）の発生見込み数

分析データ：　新規陽性者数、年齢群別・医療県別入院率；　沖縄県
年齢群別重症化率；　厚生労働省
平均期間（入院・重症）；　HER-SYS

	新規陽性者数（確定日）			入院患者数（8月21日時点）		
実効再生産数	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5
沖縄本島	11,909	23,981	48,292	810	990	1,288
宮古圏域	634	1,276	2,570	22	29	41
八重山圏域	410	825	1,661	21	27	35
合計	**12,952**	**26,082**	**52,523**	**853**	**1,046**	**1,364**

沖縄県疫学・統計解析委員会